

○議長（井上光三君）

続いて、通告3番 4番井上和男君の一般質問を行います。

4番 井上和男君。

○4番議員（井上和男君）

おはようございます。4番井上和男です。

これより通告に基づきまして、一般質問をさせていただきます。子どもの目の機能は、生まれてから発達を続け、6歳ごろまでには、ほぼ完成をいたします。成長の段階で、視力異常を見つけるための検査では、「ランドルト環」と呼ばれるものが一般的に使われております。ここにいらっしゃるすべての方が、子どものころ、あるいは眼鏡を作るときの視力検査で、アルファベットの「C」、または丸い円の一部が欠けているのが見えるかどうか、確認する検査を受けたことがあると思います。あの丸い円の一部が、欠けた絵を「ランドルト環」といいます。ちなみに、直径が7.5ミリで、太さが1.5ミリ、切れ目が1.5ミリのランドルト環を5m離れたところで見分けられる視力を1.0というそうです。これは世界共通の基準だそうです。本町でもこのランドルト環の検査を実施していると思います。3歳児健診の視力検査では、視力異常者は、「なし」という結果であります。

しかし、3年後の就学時健診では8.3%の視力異常者が発見されております。小学校入学時で視力異常が発見され、弱視と診断されても十分な視力が得られないとの指摘がなされております。そのために、町でも3歳児健診での視力異常者の発見率向上に取り組んでおられると思います。その取り組みについてお伺いいたします。

○議長（井上光三君）

子育て支援課長 佐藤洋子さん。

○子育て支援課長（佐藤洋子さん）

ただ今の、3歳児健診における視力異常の発見率向上の取り組みについてのご質問にお答えいたします。

3歳児健康診査における視覚検査につきましては、視力の発達を阻害する疾病の早期発見及び早期治療を目的として実施しており、国の指針に基づき、ランドルト環を用いた方法で実施しております。

検査方法といたしましては、3歳児健康診査の通知とともに、ご家庭での視覚検査用ランドルト環及び説明資料を送付し、事前に検査を実施していただいております。健診の際には、検査の確認及び問診を行い、検査未実施または検査不可能な場合は、3歳半で再度ご家庭での検査をお願いしております。

また、3歳半で検査が不可能な場合は来所いただき、保健師が検査を行い、その上で視力の確認ができない場合は、精密検査票を発行して、眼科医受診に繋げ

るシステムとなっております。以上です。

○議長（井上光三君）

4番 井上和男君。

○4番議員（井上和男君）

再質問です。先ほどの回答の中で3歳半での再確認の方法がどのようなことで行われているのか、教えていただきたいと思います。

○議長（井上光三君）

子育て支援課長 佐藤洋子さん。

○子育て支援課長（佐藤洋子さん）

3歳半での検査の方法についてであります。3歳児健診と同様な方法で、ランドルト環を使用した検査をお願いしているところでございます。以上です。

○議長（井上光三君）

4番 井上和男君。

○4番議員（井上和男君）

再質問です。就学時健診で、異常が判明した子どもの追跡調査というのは行っているのでしょうか。

○議長（井上光三君）

教育総務課長 中込浩司君。

○教育総務課長（中込浩司君）

ただ今の質問にお答えさせていただきます。

就学児健診におきまして異常が見つかった場合は、その保護者に再検査の通知をお渡しし、いわゆる眼科医などでもう一度精密検査をしていただいた結果の報告書を町の教育委員会にいただいて、そのまま入学予定の小学校に通知を渡していることを行ってございます。以上になります。

○議長（井上光三君）

4番 井上和男君。

○4番議員（井上和男君）

弱視治療には、3歳半から5歳ごろまでスクリーニングで発見されることが重要であるといえます。

次の質問ですけれども、しかし、子どもの視力検査は難しいことも分かります。そこで、簡単な操作で、客観的で正確な検査結果が得られる「スポットビジョンスクリーナー」の導入により、視覚異常者の早期発見につながる当局の考えをお伺いいたします。

○議長（井上光三君）

子育て支援課長 佐藤洋子さん。

○子育て支援課長（佐藤洋子さん）

スポットビジョンスクリーナーの導入についてのご質問にお答えいたします。

スポットビジョンスクリーナーは、生後6か月以降成人まで使用できる視機能の屈折検査機器であります。特徴としては、簡易な方向で検査ができ、近視・遠視のみならず乱視・不同視・斜視等の視覚異常のスクリーニングが可能であり、3歳児健診等で導入している自治体では、弱視の発見率が向上している状況もみられてきております。

しかしながら、非常に高価な機器であり、町村単位では使用頻度も少なく、導入自治体は増加しているとはいえ、全国的にもまだ少数であります。町としましては、まず、3歳児健診における視力検査方法の徹底を図るとともに、ご家庭での視力検査の重要性について、さらに啓発してまいりたいと考えております。

また、屈折検査機器については、既に導入している自治体の状況や眼科医師のご意見、また県への要請なども含めて、総合的に検討してまいりたいと考えております。以上です。

○議長（井上光三君）

4番 井上和男君。

○4番議員（井上和男君）

再質問です。このスポットビジョンスクリーナーの取扱業者ではデモ機の貸し出しを実施しております。3歳児健診や保育所でこのデモ機を使用してみたいかがでしょうか。

○議長（井上光三君）

子育て支援課長 佐藤洋子さん。

○子育て支援課長（佐藤洋子さん）

デモ機の使用のご提案についてお答えいたします。

この機器を取り扱っている会社と相談したところ、デモ機1町村に1回、1日のみ貸していただけるということをお答えいただきました。今年度、1回、3歳児健診の日にお借りいたしまして、その日を利用して、保育所等でデモ機を活用して、その状況を把握してまいりたいと考えております。以上です。

○議長（井上光三君）

4番 井上和男君。

○4番議員（井上和男君）

はい、ありがとうございます。前向きな回答をいただきまして、本当にありがとうございます。

弱視については、発見から治療までの期間が限られております。子どもの将来に関わる事ですので、町においても治療ができる月齢になったら、できるだけ早く発見できるよう、取り組んでいただきたいと思います。

以上で私の質問は終わります。

○議長（井上光三君）

以上で通告 3 番 4 番井上和夫君の一般質問を終わります。